

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200920		
法人名	有限会社 龍泉		
事業所名	グループホーム 秀東館 虹		
所在地	山口県岩国市周東町下久原1733		
自己評価作成日	平成22年9月10日	評価結果市町受理日	平成23年4月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の建物は、現代建築による高い天井・天窓からの自然な光や風を取り込むことができ開放感にあふれ、明るく心が和む造りとなっています。利用者も日々の生活に一喜一憂されたり、状況にも変化はありますが出来るだけ寄り添い、秀東館の理念である現代社会が忘れかけている家族の温かさを大切に、一つ屋根の下でそれぞれ違った個性を持った人々が集まり生活をする。利用者は私達の父であり母である。また利用者同士は兄弟姉妹でもある。私達が目指す“大家族主義”の理念を基に、共同生活住居(グループホーム)において、食事・排泄・入浴等の介護、日常生活上のお世話をし、能力に応じ自立した生活が営んで頂ける様に取り組んでいます。またご家族や地域の方も自由に出入りが出来る様、施設内外一切施錠せず閉鎖感のない開放された体制をとっています。地域に密着した開かれた施設として、誰でも自由に立ち寄って頂ける様、一層努めていこうと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域向けホーム日より「情報発信」を地域の7班に毎月回覧して事業所の様子や行事を知らせたり、事業所の運動会や避難訓練等には地域の方々に参加してもらい、地域の清掃作業や行事には事業所から参加するなど、交流しておられます。家族向けホーム便りは利用者一人ひとりの写真と共にコメントを添えて、行事や生活の様子、健康状態などを個別に知らせておられます。家族会もあり、地域の花火大会に合わせた総会は親睦を兼ね、会議、会食、情報交換などが家族会主導で行なわれ、事業所や家族間の意思の疎通が図られています。管理者と計画作成担当者は介護勤務体制外として、受診の支援や家族への対応、緊急時の対応など全体的な業務に携わっておられ、利用者の生活を支えておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	秀東館の理念“大家族主義”を基に家族の温かさを大切にして寄り添い、虹が目指している“あなたの笑顔と一緒に暮らしたい”の介護ができるよう、常にミーティング等で話し合い、職員間で共有し、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所の理念をつくり、ミーティングで話し合いながら職員間で共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として地域での清掃作業や、近隣共同の溝掃除に参加している。また施設の便りを作成し、地域へ回覧し、内容に行事等の案内を入れて参加を得るなど、地域住民と交流している。	地域の清掃活動や行事に参加している。地域向けホーム便り「情報発信」を回覧し、事業所で行なう運動会やクリスマス会、避難訓練等への参加を呼びかけており、日常的にも声かけや交流を行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議等において、施設で行った研修等の説明や研修の報告をして認知症の人の理解や支援方法の理解に生かしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を基に、指摘点についてはミーティングにて全職員に報告し、改善方法等は検討し、向上に向けて取り組んでいる。	評価の意義を理解し、評価項目の共通理解や自己評価結果を共有しながら、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において施設での行事や利用者の生活状況を説明し、意見交換の場を設け、頂いた意見を参考にしてサービス向上に活かしている。	自治会長、民生委員、地域住民代表、消防署、第三者委員、地域包括支援センター、家族、利用者等の参加者で2カ月に1回定例的に開催している。事業所の行事や利用者の生活状況を説明し意見交換して、意見を運営やサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会を立ち上げ、年に一度行政との意見交換の場を設け、実情を報告し意見を頂く等して協力関係が築けるよう取り組んでいる。	市内の地域密着型サービス事業者連絡協議会で、行政と1年に1回、意見交換する場を設け、サービス向上に努めている。日頃から連絡や相談、助言等も行なっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等において、利用者の行動を制限する行為を説明し確認をして、日々の反省を基に身体拘束しないケアに取り組んでいる。また施設周辺にはセンサーを設置しており、誰でも自由に出入りできるようにと鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ミーティング等で代表者及び全ての職員は身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束のないケアを実践している。日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についてはミーティング等で説明しており、関連資料として作成し誰でも見れるようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設において1名成年後見制度を活用されているが、その他の利用者に該当なしとなっている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には施設見学を勧めて、施設での生活状況の雰囲気を感じて頂き、疑問点には十分な説明を行い理解が得られるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に相談できたり、苦情申立ができる信頼関係づくりに努めている。苦情申立があった場合は速やかに対応できるような体制とし、運営に反映させている。	年1回の家族会総会や面会時等で、意見や要望を聞いている。苦情受付体制や苦情処理の手続きを明示し、相談や苦情の申し立てが出来ることを説明して、第三者委員も選任している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のユニット会議で職員間の意見交換し、幹部職員月例会議でも職員の意見や提案を発表し反映させている。	毎月1回、9時から12時まで行なうユニット会議で職員間で意見を出し合い、法人内の月例幹部職員会議でも職員の意見や提案を発表して、運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し、働きやすい環境づくりしている。また特別賞与の際には、勤務状態等の評価を行い、向上心をもって働けるよう支給されている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技術面でも向上が図れるよう、定期的にテーマを決めて研修を行っている。	テーマを決め定期的に研修会を行っている。外部研修参加者は伝達講習を行い、事例検討会など働きながらトレーニングしていくことを進めている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者連絡協議会を通じ、同業者との交流を図り、意見交換や情報の共有化してサービスの質の向上できるよう取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問や面接して本人自身との関わりをもつよう努めている。また個別に傾聴して、安心して生活できるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前訪問や面接してご家族の困っていることや不安を聞きだし、入居後は安心して頂けるよう相談や報告を行いながら、信頼できる関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態に応じた支援を踏まえ、情報提供を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意なことや本人の経験等を活かせる活動に参加して頂く等、職員と暮らしを共にし寄り添えるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	利用者が安心して生活出来るように、ご家族 と話し合いながら協力をして頂いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の気持ちやご家族の意向を踏まえるよう な支援に努めている。	友人との手紙のやりとりや、今まで通っていた 馴染みの美容室の利用、友人や家族の面会 時は気持ち良く過ごせるよう配慮しながら、馴染 みの人や場との関係が途切れないよう支援 している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	トラブルを避けるため職員が介入したり、時 には席替え等を行い、他の関わりが持てるよう 配慮している。また居室で過ごされることの 多い利用者には、声かけしてレク等への参 加を促し、孤立しないよう見守りし、フロアに て過ごして頂いている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方でも相談があれば、できる範囲 で受けている。また機会があれば、面会に行 く等して支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	利用者の意見や希望を聞きながら、またご家 族と相談しながら、意向に添えるよう努めて いる。	日々の関わりや会話、表情やしぐさなどから 利用者の思いや意向を把握するように努めて いる。必要に応じ家族からも聞き、困難な場 合は本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居前に事前に得た生活環境や生活歴、ま た病歴の情報は職員全員に提供し情報の 共有している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	心身状態等の特記事項はケース記録に記 載し、ミーティングで申し送りをしている。また 水分や食事量等はひと目でわかるよう介護 記録に記載している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時家族の意向を聞いたり、ミーティングやユニット会議で出た意見等が統一したケアとして反映できるよう努めている。	面会時、家族の希望も聞き、毎月のミーティングやユニット会議で出た意見や3カ月毎のモニタリングを基に、3カ月毎に介護計画を作成している。状況に変化があればその都度見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や対応したケア内容等を記録し、特変事項については職員間で申し送りして共有、実践に活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態に応じ、希望に沿えるよう取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の行事への参加や、学生による職場体験、ボランティア等の協力を得て交流し、暮らしを楽しめるよう取り組んでいる。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医または利用者やご家族の希望される病院と連携を図りながら適切な医療を受けられるようにしている。内科は月1回、歯科は2ヶ月に1回と往診して頂き健康管理に努めている。	本人や家族が希望するかかりつけ医や協力医への受診や往診の支援をし、適切な医療を受けられるように配慮している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者の日々の健康状態を把握し、協力医と連携、適切な対応ができるよう努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は病院関係者に施設での状態等の情報を提供し、定期的に今後の方向性の相談をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針や同意書を作成している。ご家族の意向を確認し、協力医や職員の対応等について検討し、チームで取り組んでいる。	重度化した場合の指針があり、同意書も作成している。重症化や終末期にあたっては、早い段階から家族の意向を確認し、全員で方針を共有しながら取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急マニュアル作成し、定期的に研修を行い対応ができるよう取り組んでいる。	緊急時のマニュアルを作成している。AEDの設置や取り扱いの研修を行い、緊急時の対応や初期対応が出来るよう取り組んでいる。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っており、内1回は夜間想定としている。訓練の前には、地域へ訓練の案内を出し、参加を呼びかけている。	火災、地震、風水害等のマニュアルを作成している。年2回火災避難訓練(内1回は夜間想定)を実施している。近隣住民にも呼びかけ、地域の人参加し、集合場所の確認など行なっている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、思いやりのある言葉かけや対応に努めている。また言葉づかいや対応について気がついた時に互いが注意し合える環境づくりに努めている。	マニュアルを基にミーティング等で確認しあい、一人ひとりの人格を尊重した、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行なっている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を尊重しながら、出来ることの支援や自己決定を促す声かけ等を働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースを大切にして、食事等も時間をかけてゆっくり摂って頂いている。強要せず、希望に沿えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際、洋服は職員と共に選び、2ヶ月に一度の割合で理容ボランティアの出張サービスを利用している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員も利用者と同じテーブルにつき、同じ食事を会話をしながら摂っている。配膳や下膳も協力しながら行っている。誕生日会では、利用者の好物を取り入れたメニューとしている。	栄養士がたてた献立を、三食ともホームで調理している。職員と利用者が一緒に配膳、下膳、後片付けなどを行い、同じ食事を食べながら楽しむことができるよう支援している。誕生会は本人の嗜好や希望を取り入れた献立となっている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立を基に栄養バランスに配慮し、水分や食事量はひと目で解るよう介護記録に記載している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2ヶ月に1回、歯科往診にて口腔管理している。歯科医の指導の基、毎食後の歯磨きを個々の能力に沿い介助を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら個々の状態に合わせた対応を行い、排泄パターンの把握し、トイレでの排泄や排泄の自立ができるよう努めている。	利用者の排泄パターンを把握して、さりげなく声かけや誘導を行ない、トイレでの排泄を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分の補給等を実施し、排便の促しをしている。便秘になりやすい方については、随時かかりつけ医と連携をとりながら対応している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日を決めて、ゆっくり入浴して頂いている。拒否がある場合や体調不良の場合はその都度対応している。	入浴は毎日可能で14:30～16:00頃までとし週3回を目安に、1日4～5人がゆっくり入浴を楽しんでいる。希望に応じ、毎日の入浴や清拭、足浴等に対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は状態に合わせ休息していただき、夜間は安眠できるようパンツやパッド等の検討をしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は一包化して頂き、確認しやすいように薬剤情報はファイル化している。個人医療ノート作成し、受診時等の情報は記載している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ役割分担(掃除・洗濯物干し・たたみ)していただき習慣化している。また気分転換できるよう希望を聞いて個別対応をしている。	カラオケ、体操、習字(ボランティアが指導)、洗濯物たたみ、食事作り、食器洗い、季節の作品づくりなど、楽しめる時間や活躍できる場があるよう、利用者一人ひとりのできることや希望に添いながら支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月1回は外出レクを取り入れ、利用者全員に外の風や雰囲気を感じてもらっている。希望があれば外出の機会を設けている。	散歩や買い物、桜や菖蒲、紫陽花、紅葉等季節の花見など、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持をして頂いている。その際、ご家族の同意を得てからの対応としている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の意向を踏まえ、電話して頂いている。届いた手紙等は直接本人にお渡しして、返事が出せるよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地良く過ごせるようフロアにソファだけでなく、畳を設置し、足を伸ばしたりできるようにしている。天気の良い日は玄関先でひなたぼっこ等して季節を感じて頂けるよう工夫している。	木造平屋作りで、玄関と事務所を中心に両サイドにそれぞれのユニットがあり、玄関と事務所の前後の廊下を共用空間として、自由に往来が出来、生活空間を広げている。広いフロアや高い天井、天窓から取り込む光など、居住空間は広く、明るく、不快感はない。季節の花が飾られ、フロアに面した厨房からは調理の匂いや野菜を刻む音など、生活感が感じられる。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓や畳、ソファ等気の合った利用者同士が、思い思いの場所で過ごして頂けるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際、使い慣れた家具や生活用品を持参して頂き、本人が違和感なく過ごせるよう配慮している。	使い慣れた家具やベッド、机、テレビ、その他好みの生活用品を持参しており、壁面には家族との写真や、貼り絵や習字などの作品も飾られ、その人らしく安心して過ごせるよう工夫されている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりを設置し、一人でも安全に歩行できるようにし、トイレの場所がわかるようプレートを張り付けている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム秀東館 虹

作成日： 平成 23年 4月 20日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故報告やヒヤリハット報告等、ミーティングにて検討を行っているが、見直し事項について職員全体で周知徹底できていない。	ミーティング等において、職員全体で周知徹底する。	事故報告やヒヤリハット等が出された場合、必ずミーティングにおいて検討し、見直し事項を掲示し職員全員が確認できる体制を整える。	12ヶ月
2	31	医療に連絡する基準が設けられていない。	医療に連絡する基準を定める。	医療と連携を図り、一人一人の具体的な身体 の基準を明記し、緊急連絡のファイル化する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。